

「便利な田舎ぐらし」が できるまち 舞鶴

次期総合計画策定に向けて⑫

第7次舞鶴市総合計画がスタート

「ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市」を目指して

市が目指すべき方向やまちづくりを進めて行く上での指針となる第7次舞鶴市総合計画が4月からスタートしました。今回は、計画に込めた思いや目指す都市像の実現に向けて、市民の皆さんと一緒に進めていくまちづくりの取り組みについてお伝えします。



日本全体が本格的な人口減少・少子高齢社会を迎えている中、国は東京一極集中の是正や地域の特性に応じた地域課題解決を目指す「地方創生の取り組みの推進と、近年急速に発展し第4次産業革命と呼ばれるAIやIoTなどの先端技術を積極的に導入し、経済発展と社会課題解決の両立を目指す」としています。

新しくスタートした第7次総合計画では、都市像として「ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市 MAIZURU」を掲げています。また、前述した社会情勢の変化に対応した目指すべき将来のまちの姿として、豊かな自然、歴史、文化や少し足と延ばせば都会にも行けるといふ立地性を最大限に生かし、経済人口10万人規模の都市機能を維持しながら、新たな技術を導入した「便利な田舎暮らしができるまち」を目指します。先端技術は、これまで2、3人で行っていたことが1人でできるようになるなどといった仕事を効率化し、生活を便利にします。一方で、効率化・省力化のみを追い求めることは、これまで人が暮らしの中で大切に

きた、人と人の「助け合い」や「つながり」の希薄化にもつながりかねません。本市が目指す「便利な田舎暮らしができるまち」は、企業や教育機関と連携し、先端技術を単に仕事の効率化に活用するのではなく、それを使って人と人のつながりや助け合いを促進する新しい仕組みを作ります。そして、人々が助け合って生活していた昔の良さを維持しながら、便利で心豊かに暮らせるまちを実現し、全国のモデルとなる持続可能なまちになることです。

市では、これらの実現に向け、これまで取り組んできたまちづくりの成果を生かしながら、市民や事業所、団体の皆さんと一緒に、積極的な取り組みを進めていきます。